

平成28年度 学校評価

本年度の 重点目標		<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善 ○保護者や関係機関との連携に基づく教育の充実 ○地域のセンター的機能の拡充 		
項目 担当	重 点 目 標	具 体 的 方 策	留 意 事 項	
総務	<ul style="list-style-type: none"> ・見やすい学校だより ・スクールキャラクターの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を吟味し、紙面割りを考える。 ・職員が使用する名札や名刺、学校から配信される文書に掲載してもらう。 ・利用しやすいスクールキャラクターのイラスト集を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見やすく、親しみやすいレイアウトを考える。 ・他の分掌や教科、学部、学年と連携して取り組む。 ・児童生徒や職員に自然に目に止まる掲示の仕方を工夫する。 ・季節や行事の際に利用しやすいイラストにする。 	
教務	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画を生かした支援の充実 ・教材、教具等の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な指導目標の設定に生かしたり、効果的な手立てを考えたりするための方策を考える。今年度は、個別の指導計画に自立活動の内容（6区分26項目）を書き加え、職員間で確認することで、目標や手立ての共通理解を図る。 ・教材プリントデータの更新や教材室の整理整頓を定期的に行い、活用の充実につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究や他分掌との連携を図り、校内で共通したアセスメントツールを探っていく。 ・児童生徒の実態により即した教材プリントになるようデータの更新をするとともに、ホームページの更新も行うようとする。 ・定期的な整理整頓を行い、教材・教具の適切な管理に努める。 	
生徒 指導	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な通学環境の整備 ・基本的生活習慣の定着 ・防災体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・S B 6 コースの安全管理、運行の適正化に努める。（緊急時の対応、経路・ダイヤの調整） ・自力通学生の通学経路の把握と交通安全指導を徹底し、事故防止に努める。 ・あいさつの習慣、身だしなみの意識、持ち物を管理する力を高め、好ましい生活習慣の定着を図る。 ・マニュアル及び訓練により、災害時の職員の対応、役割を周知する。 ・防災物品、備蓄食糧の管理及び整備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス会社との連携、定期的な登下校指導の実施などを継続する。 ・全校集会、部集会、週番活動、学級活動、HR等の時間を活用する。 ・防災マニュアルの点検、メール登録の推奨と管理を行う。 ・備蓄食糧は三年保管後、返却する。 	
進路 指導	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高等部までの組織的、系統的なキャリア教育の推進と充実 ・職員の進路指導における専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講話会等を開催し、保護者の意識を高める。 ・関係分掌と連携し、児童生徒の抱える課題に応じて、個別支援会議を開催し、地域につなげられるよう努める。 ・職員向けの現職研修や進路講座等を充実させ、進路情報を積極的に提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講話会や進路説明会、懇談等の機会を活用し、進路情報を随時提供することで、早期から保護者が卒業後の進路に対して見通しをもてるようとする。 ・市町の福祉課や関係機関との連携を密にする。 ・卒業生の進路先から、障害者雇用の現状と課題、在学中に身につけたい力等を聞けるようにする。 	
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康づくりの推進 ・安全な環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室経営の充実を図り、学校保健活動の中心としての役割を果たす。 ・緊急対応訓練をとおして職員の安全意識を高め、職員間の連携を図る。 ・日々の活動を通じて児童生徒の健康の保持増進を図る。 ・教育活動全体をとおして食育指導などによって好ましい食習慣を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室経営計画の充実を図る。 ・年間3回の訓練を実施するなかで、対応力を高める。 ・授業全般を通じて、一日の活動量を増やす。 ・各教科等における食に関する指導を積極的に展開する。 	
研 修	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性と指導力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・現職研修の充実を図る。 ・全校研究の活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に生きる研修となるよう、各研修の内容を充実させ、専門性の向上を図る。 ・日々の指導に生かすことを目的に、自立活動の視点を意識しながら、授業改善につながる研究のまとめを行い、職員の意識を高め、教育効果の向上を目指す。 	
視 聴 覚	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器の有効利用の推進 ・図書室の円滑な運営および、児童生徒の利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚準備室や機器を使いやすく整備する。 ・普通教室用視聴覚機器（CD ラジカセ、液晶テレビ等）の更新。 ・利用しやすい図書室を目指した環境整備。 ・図書の紛失防止に努め、貸出・返却方法の周知徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の配置や表示を工夫する。 ・機器の互換性や利便性を配慮して機器を選定する。 ・児童生徒の実態に応じたイベント等を工夫する。 ・図書管理用パソコンの操作マニュアルを整備する。 	
情 報	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の情報活用技能およびセキュリティ意識の向上 ・情報モラルの教育の充実 ・校内情報化推進のための情報管理及び活用に対する先導と分掌間の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的なサポートとともに、夏季休業中に情報機器活用講座を開催する。教員のセキュリティ意識を高めるために、資料提供などの啓発に努める。 ・情報モラル教育について、担任や学年、生徒指導部等との連携を密にして進めていく。 ・他分掌等と連携して、タブレット端末の研究と有効利用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より高いセキュリティ意識を持てるよう、繰り返し、情報提供をする。 ・情報部職員が、自己研さんに努める。 	
地 域 支 援	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育のセンター的機能の充実 ・校内の児童生徒に対しての支援体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季研修会を実施し、児童生徒を支援する際に必要な知識や情報、障害特性に応じた支援方法等を提供する。 ・必要に応じて個別支援会議を開催し、関係機関等との連携を図るとともに、児童生徒が必要とする支援体制等を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ABA（応用行動分析）の考え方を応用した研修を行い、小中学校の先生方と一緒に具体的な支援方法を検討できるようにする。 ・他分掌と連携し、児童生徒の抱える課題に応じて、より適切な個別支援会議等が行えるようとする。 	
自 立 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導支援の検討及び整理 ・教材・教具等の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導場面ごとの手引きを作成し、職員の共通認識のもとで指導ができるようとする。手引きに名称を定め、全職員に周知する。 ・既存の教材・教具を再整備し、使いやすい環境を整える。また、新たな教材の開発を行い有効活用につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した手引きについては、校内 Web やタブレット端末で閲覧できるようとする。 ・教材・教具を紹介する際は、動画や画像を添付して、使用方法等をわかりやすくする。 	
小 学 部	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣や日常生活における基本的な力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・身辺処理を中心とした日常生活の基本的な力を基礎から見直す。 ・安全な生活環境の整備や個の実態に応じた支援を充実させることで、けがや事故等のない安全で健康な生活を送れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の基本的な力を基礎から見直し支援方法の充実を図る。 ・学習環境の整備の徹底や児童の行動を予測した支援体制の充実を図る。 ・懇談会やケース会を通して、保護者や職員間 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の視点を取り入れた授業実践を職員間で共通理解して行い、部全体で自立活動の指導についての意識を高める。 	<p>で個別の指導計画の共通理解を深める。 ・全校研究の授業研究の参観や教材教具展等を通して自立活動の指導についての理解を深める。</p>
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒全員が「分かった」「できた」と感じられる授業を創り、笑顔あふれる中学部をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・UDの視点から補助具を開発したり、環境を整えたりして生徒自身が課題を理解し、落ち着いて取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動を適度に取り入れる。 ・授業の中で一人一人が「かかがやける場面」を設定する。 ・「分かりやすさ」「やりやすさ」を優先した教材や教具、補助具の開発を積極的に行う。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加のための力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を見据え、自立活動の視点で生徒一人一人の適性にあつた指導を行う。 ・学校生活の様々な行事を通して、基本的生活習慣の確立など、社会生活を営む上で必要な力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の実態把握に努め、困難さの軽減、改善・克服ができる支援方法を探り、その充実を図る。 ・挨拶・身だしなみ・持ち物の管理などの基礎基本の力をつけるとともに、集団生活を通して自己の役割や責任を果たそうとする気持ちや約束やルールを守ろうとする気持ちを育て、好ましい人間関係を構築できる力を育成する。
学校関係者評価を実施する主な項目	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で気持ちの良い学習環境の整備 ・自立活動の視点でせまる一人一人を大切にした授業展開 		